

池上俊一 = 選書&コメント

『原典 イタリア・ルネサンス芸術論』 刊行記念フェア
図書リスト

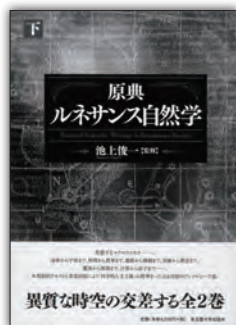


無料 / ご自由にお持ちください



Scritti sull'arte del Rinascimento Italiano

新刊



原典 イタリア・ルネサンス芸術論 上・下

池上俊一監修

名古屋大学出版会 (2021) ISBN978-4-8158-1026-9 / 978-4-8158-1027-6

原典 イタリア・ルネサンス人文主義

池上俊一監修

名古屋大学出版会 (2010) ISBN978-4-8158-0625-5

原典 ルネサンス自然学 上・下

池上俊一監修

名古屋大学出版会 (2017) ISBN978-4-8158-0880-8 / 978-4-8158-0881-5

ルネサンス時代、とりわけその発祥の地となったイタリアにおいては、建築・彫刻・絵画作品が創られ、文学作品が書かれ、自然や人間の本质が探求されたが、それと同時に、それらの作品・行為を「論ずる」流儀が知識人・芸術家、そして一般市民の間に広まり、とめどない言葉が紡がれた。「ルネサンス原典シリーズ」3部作は、それらの言葉を集めた本邦初の集成である。ルネサンス理解が一層深まること、間違いない。

各巻目次

芸術論【上巻】

- 美学
ジョルダノ・ブルーノ
紐帯一般について
- 模倣論
ジュリオ・カミッロ
模倣について
- イデア論
フェデリコ・ズッカリ
- 画家・彫刻家・建築家のイデア
理想都市論
アントニオ・フィラレーテ
建築論(第二書)
- 建築論
セバスティアノ・セルリオ
建築七書(第四書)
- 庭園論
アゴ스티ーノ・デル・リッチョ
王の庭について
- 色彩論
フルヴィオ・ペレグリーノ・モラート
色彩の意味について
- 絵画論
レオン・バッティスタ・アルベルティ
絵画論
ジョヴァン・パオロ・ロマッツォ
絵画神殿のイデア
- 彫刻論
ポンポニオ・ガウリコ
青銅の鑄造術について(第一章)
- パラゴニー
フランチェスコ・ドーニ
素描論(第六章)
- 工芸論(陶芸)
チブリアーノ・ピッコルパッソ
陶芸三書(第一書)
- 工芸論(金銀細工)
ベンヴェヌート・チェッリーニ
金銀細工論
- 印刷術・書体論
アルド・マヌーツィオ
関連史料
- 芸術家自伝・伝記
ロレンツォ・キペルティ
コメンタリー(第二書)
- パトロン論
画家とパトロン
関連史料

芸術論【下巻】

- コレクション論
マルカントニオ・ミキエリ
美術品消息

- 図像論
ガブリエーレ・パレオットー
聖俗画像論
- インブレーション論
パオロ・ジョーヴィオ
戦いと愛のインブレーションについての対話
- 遠近法論
ピエロ・デッラ・フランチェスカ
遠近法論(第一書)
- 比例論
ヴィンチェンツォ・ダンティ
完全比例論
- 俗語論
ピエトロ・ベンボ
俗語論(第一書)
- 修辭論
ロレンツォ・ヴァッラ
ラテン語の典雅(序文)
- 悲喜劇論
ジャンバッティスタ・ジラルディ・チンツィオ
悲劇と喜劇の創作をめぐる談話
あるいは書簡
- 抒情詩論
ポンポニオ・トレッリ
抒情詩論(第七講)
- 叙事詩論
フランチェスコ・パトリート
ルドヴィーコ・アリオスト擁護
- 音楽論
ジョゼッポ・ザルリーノ
ハルモニア教程
- ヴィンチェンツォ・ガリレイ
古代と当代の音楽についての対話
- 演劇論
スーズダリアのアヴラミアイ
スーズダリアのアヴラミアイの出生
- 反芸術論
ジローラモ・ベニヴィエーニ
カンツォーネ「来たれ、主がおられる」についての註解

人文主義

- フランチェスコ・ペトラルカ
イタリア誹謗者論駁
- コルツッホ・サルターティ
僧主論
- レオナルド・ブルーニ
ピエトロ・パオロ・イストリアーノに献じられた対話篇
- ナンニ・デッリ・ストロツツィに捧げた追悼演説
- ピエール・パオロ・ヴェルジュエーリ
パウルス
- ポッジョ・ブラッチョリーニ
食欲論
- フラヴィオ・ピوند
イタリア案内
- ジャンノツツォ・マネッティ
フランチェスコ・ペトラルカの生涯
ジョヴァンニ・ボッカッチョの生涯

- レオン・バッティスタ・アルベルティ
文学研究の利益と損失
- ロレンツォ・ヴァッラ
快楽論(第一巻)
- ピウス二世
覚え書(第八巻)
- マッテオ・パルミエーリ
市民生活論(第二巻)
- イゾッタ・ノガローラ
アダムとエヴァの罪の同等性あるいは非同等性について
- クリストーフォロ・ディ・バルトロメオ・ランディーノ
カマルドリ論議(第一巻)
- ジョヴァンニ・ジョヴィアーノ・ボンターノ
アエギディウス
- バッティスタ・グアリーノ
教授と学習の順序
- ロレンツォ・デ・メディチ
アンブラ
- 謝肉祭の歌
- アンジェロ・ポリツィアーノ
ジュリアーノ・デ・メディチ殿の馬上槍試合に捧げるスタンツェ
- ヤコポ・サンザーロ
アルカディア
- ピエトロ・ベンボ
アゾラニ(第一巻)
- ジョヴァンニ・デッラ・カーサ
ガラテオ

自然学【上巻】

- 自然誌
フランシス・ベイコン
森の森(第七世紀)
- 動物誌
コンラート・グスター
動物誌(犬と狼について)
- 植物誌
ブロスベロ・アルビーニ
ルバー論
- 農学
オリヴィエ・ド・セルル
農業の劇場(序文)
- 料理術
ブラーティナ
適正な快楽と健康について(第一巻)
- 温泉論
ウゴリーノ・ダ・モンテカティーニ
温泉論
- 医学
ジャン・フェルネル
事物の隠れた原因
- ジローラモ・フラカストロ
伝染・伝染病およびその治療について(第一巻)
- 解剖学
アンドレアス・ヴェサリウス
人体の構造について
- マルチェッロ・マルビーギ
肺についての解剖学的観察
- 発生学
ウィリアム・ハーヴェイ
動物の発生(序文)
- 驚異論
アンブロワーズ・パレ
怪物と驚異について
- 自然魔術
ヘンリクス・コルネリウス・アグリッパ
オカルト哲学について(第一巻)
- パラケルスス
像についての書
トーマゾ・カンパネッラ
事物の感覚と魔術について(第四巻)

自然学【下巻】

- 学問論
ジョン・ディー
数学への序説
- ユートピア論
ヨハン・ヴァレンティン・アンドレーエ
クリスティアノポリス
- 地理学
セバスティアン・ミュンスター
宇宙誌
- 占星術
マルシリオ・フィチーノ
太陽論
- 天文学
ニコラウス・コペルニクス
ヴェルナー論駁書簡
- ティコ・ブラーエ
新星について
- 光学
ヨハネス・ケプラー
屈折光学
- 数学
ウィリアム・オートリッド
数学の鍵
- 力学
シモン・ステヴィーン
計量法原論
- 工学
マリアーノ・ディ・ヤコポ(タッコラ)
尋常ならざる装置と建築についての第三の書
- 鉱山学・冶金術
ヴァンノツッホ・ピリングッチョ
火工術(第七書)
- 錬金術
伝トマス・ノートン
錬金術式目
- 化学
ロバート・ボイル
実験の失敗について
アイザック・ニュートン
酸の本性について
- 原子論
ウォルター・チャールトン
エビクルス-ガッサンディー
チャールトンの自然学(目次)

美術家列伝 第1巻～第5巻

ジョルジョ・ヴァザーリ、森田義之 / 越川倫明 / 甲斐教行 / 宮下規久朗 / 高梨光正監修

中央公論美術出版 (2014-) ISBN978-4-8055-1601-0/-1602-7/-1603-4/-1604-1/-1605-8

ヴァザーリの大著の待望の全訳(全6巻)。まもなく完結予定の本書は、各伝記に解説および詳細な註が付されており、我が国のルネサンス美術史研究を大きく前進させるであろう。

ルネサンス彫刻家建築家列伝 新装版

ジョルジョ・ヴァザーリ、森田義之監訳

白水社 (2009) ISBN9784560095010

16世紀に登場した芸術論の中でも飛び抜けて重要なのが、ジョルジョ・ヴァザーリの『美術家列伝』であった。このトスカーナ地方の画家・彫刻家・建築家の本格的伝記集成により、芸術家がたんなる職人ではなく、個性豊かな創造者であることが、社会的に認知されるようになった。

ジョルジョ・ヴァザーリと美術家の顕彰

16世紀後半フィレンツェにおける記憶のパトロネージ

古川萌

中央公論新社 (2019) ISBN978-4-12-005181-4

ルネサンス美術の演出家ともいうべきヴァザーリは、大著『美術家列伝』にどんな意図を込めて書いたのか。「記憶のパトロネージ」を導きの糸にし、また「素描」コレクションにも着目することで、本書は意外な一面を暴き出している。

神のごときミケランジェロ とんぼの本

池上英洋

新潮社 (2013) ISBN978-4-10-602247-0

ヴァザーリの『美術家列伝』により、「神のごとき」と讃えられ、ルネサンスからマニエリスムにかけての絵画・彫刻に絶大な影響を与えたミケランジェロは、芸術論の分野でも指導的役割を果たした。本書は、ミケランジェロの生涯と作品の全貌を分かりやすく語っている。

レオナルド・ダ・ヴィンチ 生涯と芸術のすべて

池上英洋

筑摩書房 (2019) ISBN978-4-480-87400-9

ミケランジェロとともに、イタリアルネサンス美術の巨匠と評されるレオナルド・ダ・ヴィンチは、汲めども尽きぬ知と技法の泉として後続の芸術家らに感化を与えてきた。本書は、膨大な資料を駆使してレオナルドの生涯と作品を論じた、最先端の研究にして評伝決定版である。

アルベルティ イタリア・ルネサンスの構築者

アンソニー・グラフトン、森雅彦 / 足達薫 / 石澤靖典 / 佐々木千佳訳

白水社 (2012) ISBN9784560082416

イタリア・ルネサンスを代表する人文主義者・建築家・芸術理論家であるレオン・バッティスタ・アルベルティの多面的業績に目配りした総合的研究。彼の著作をふんだんに引用しながら分析を積み重ね、その意義を明らかにする方法は見事。

イタリア・ルネサンス再考 花の都とアルベルティ

池上俊一

講談社学術文庫 (2007) ISBN978-4-06-159815-7

15世紀フィレンツェの人文主義者で「万能人」の代表でもあるレオン・バッティスタ・アルベルティの多方面の業績の革新性と同時代的意義を示しながら、ルネサンスの新たな見方を示している。

ピエロ・デッラ・フランチェスカ 新装版

アンリ・フォション、原章二訳

白水社 (2009) ISBN9784560080177

《キリストの洗礼》《聖十字架伝説》などで有名なピエロ・デッラ・フランチェスカは、絵画理論家でもあり、『遠近法論』を著している。本書は、ピエロの絵画の空間構成、人物描写法、色彩表現などを取り上げ、時代環境の中でその意義を明らかにしている。

〈象徴形式〉としての遠近法

E. パノフスキー、木田元監訳

ちくま学芸文庫 (2009) ISBN978-4-480-09168-0

ルネサンス期のアルベルティ『絵画論』やピエロ・デッラ・フランチェスカ『遠近法論』は、遠近法にのっとった絵画を描く方法を画家たちに解説しているが、本書は古代と近代以降の遠近法理論や中世の空間感覚をも探査することで、ルネサンス期の「平面遠近法」誕生の背景、時代精神をより明確に炙り出している。

ウィトルウィウス建築書 普及版

ウィトルウィウス、森田慶一訳註

東海大学出版部 (1979) ISBN978-4-486-00502-5

ルネサンスの建築家は皆、ウィトルウィウスの建築書（『建築十書』）を「教科書」としてそこから出発した。アルベルティ、セルリオ、ヴィニョーラ、パツラーディオ、スカモツィらの建築論は、古代の遺物研究とともにウィトルウィウス研究から生まれたものだった。

ルネサンス理想都市

中嶋和郎

講談社選書メチエ (1996) ISBN978-4-06-258077-9

世界の夢のルネサンス建築

飛ヶ谷潤一郎

エクスナレッジ (2020) ISBN9784767827902

ルネサンス建築は、古代ギリシャ・ローマの建築規則に倣い、それを蘇らそうとしたものだが、建築家やパトロン intent、立てられた場所の伝統などによってさまざまな姿となった。本書は、豊富な写真とともにイタリアからヨーロッパ各地に広まったルネサンス建築を一望した好著。

ルネサンス庭園の精神史 権力と知と美のメディア空間

桑木野幸司

白水社 (2019) ISBN9784560097113

ルネサンス期の庭園は、中世の「閉ざされた園」から、古典古代の神話を反映した牧歌的で和やかな場へと変貌した。本書は、数々のルネサンス期イタリアの庭園を科学・哲学・工学・美学の緋混ざる中に読み解き、それが政治の道具であったことを剔抉している。

色彩の紋章

シシル、伊藤重紀 / 徳井淑子訳

悠書館 (2009) ISBN978-4-903487-28-1

イタリア・ルネサンス期には、絵画はもちろん、文学や服飾に関しても色彩が注目を集め、それぞれの色の価値と象徴的意味が説かれた。15世紀前半フランス語で著された本書はイタリア語訳も7版を重ね、当時の人々の色彩への感受性を今に伝える。

ヴェネツィアの出版人

ハビエル・アスペイティア、八重樫克彦 / 八重樫由貴子訳

作品社 (2018) ISBN978-4-86182-700-6

15世紀に誕生した印刷術は、イタリアではとくにヴェネツィア、ローマ、フィレンツェなどで繁栄した。この印刷術の発展は、美しい書体、読みやすい書体への工夫も促した。本書はルネサンス期イタリアの印刷文化を牽引したヴェネツィアのアルド・マヌーツィオを主人公にした物語である。

ヴェネツィアのパトロネージ

ベリーニ、ティツィアーノの絵画とフランチェスコ修道会

ローナ・ゴッフェン、石井元章監訳

三元社 (2009) ISBN978-4-88303-241-9

ルネサンス美術は、才能あふれる芸術家たちだけではなく、彼らに制作を依頼し、作品の細部や材料にまで口出しするパトロンがいてはじめて成立した。本書は、ヴェネツィアのサンタ・マリア・グロリオザ・デイ・フラリー聖堂の祭壇画制作や、彫刻装飾のパトロンによる寄進が、家族の死後の救霊への願いに大きく依拠していたことを示す。

パトロンたちのルネサンス フィレンツェ美術の舞台裏

松本典昭

NHK ブックス (2007) ISBN978-4-14-091083-2

フルカラー メディチ家の至宝 驚異の工芸コレクション

松本典昭

勉誠出版 (2017) ISBN978-4-585-22169-2

ルネサンス期フィレンツェを支配したメディチ家は、多くの芸術家のパトロンとして作品を依頼するとともに、世界の珍品逸品の収集に熱を上げるコレクターでもあった。本書は、美しいカラー写真とともに、磁器・漆器・カメオ・メダル・象牙細工などのメディチ家コレクションを、興味深いエピソードを添えて紹介している。

教皇たちのローマ ルネサンスとバロックの美術と社会

石鍋真澄

平凡社 (2020) ISBN9784582652109

15世紀前半から17世紀後半の約250年にわたる「教皇たちのローマ」の美術と社会を詳らかにした力作。サッコ・ディ・ローマを挟んでルネサンス期とバロック期が扱われ、前者についてはとくにミケランジェロとラファエロに光が当てられている。パトロンとしての教皇の富と力をひしひしと感ぜられる一冊。

コルティジャーナ 宮廷生活 イタリアルネサンス文学・哲学コレクション4

ピエトロ・アレティーノ、栗原俊秀訳

水声社 (2019) ISBN978-4-8010-0404-7

反古典主義文学の代表者として知られる毒舌家ピエトロ・アレティーノは、錚々たる庇護者の恩顧の下、喜劇諷刺詩、騎士物語、劇作品、書簡集などを執筆したが、ヴェネツィア画家と交流する絵画の目利きでもあった。本書は、宮廷生活を辛辣な風刺と諧謔で貶めるドタバタ喜劇。

詩学

アリストテレス、三浦洋訳

光文社古典新訳文庫 (2019) ISBN978-4-334-75397-9

ルネサンス期の文学理論を繙くと、その対象が叙事詩であれ、抒情詩であれ、演劇であれ、あらゆるジャンルの議論でアリストテレスの『詩学』が典拠として参照されている。その意味で、本書はルネサンス文学理解に不可欠の書物である。

詩作論 イタリアルネサンス文学・哲学コレクション 2

トルクァート・タッソ、村瀬有司訳

水声社 (2019) ISBN978-4-8010-0402-3

ルネサンス期には、作品を創る芸術家自身、理論にも自覚的であった。本書は、『エルサレム解放』で有名なタッソの英雄詩に関する理論書で、アリストテレスの『詩学』の原則をもとに、本当らしさをいかに追求すべきか、多様性と単一性をいかに折り合わせるべきかが、題材、プロットの構成、文体・修辞法などをめぐって解明されている。

アリオスト 狂えるオルランド*

ルドヴィコ・アリオスト、協功訳

名古屋大学出版会 (2001) ISBN978-4-8158-0407-7

イタリア・ルネサンス末期にはトルクァート・タッソとルドヴィーコ・アリオストの優劣比較がさかに行われた。叙事詩としての芸術性、騎士物語の本質、模倣の正当性、アリストテレスの『詩学』の教えの遵守などが判断基準であった。本書はタッソの『エルサレム解放』と肩を並べるアリオストの傑作叙事詩。

ペトラルカ カンツォニエーレ 俗事詩片*

フランチェスコ・ペトラルカ、池田廉訳

名古屋大学出版会 (1992) ISBN978-4-8158-0184-7

イタリアでは、長きにわたってラテン語のみが思想・文学の言語としてふさわしいとされてきたが、16世紀には俗語(イタリア語)もラテン語と並ぶ高い位置に昇る。抒情詩において最高の模倣すべきモデルとされたのが、ペトラルカの『カンツォニエーレ』であり、本書は詳細な訳注が付された、本邦初の新訳。

* 現在品切れとなっていますが、復刊の準備を進めています。

劇場のアイデア

ジュリオ・カミッロ、足達薫訳

ありな書房 (2009) ISBN978-4-7566-0906-9

ヘルメス主義、ルルス主義、新プラトン主義、さらには魔術・占星術・カバラなどの流れを組む斬新な記憶術の書『劇場のアイデア』の翻訳に詳しい注釈・論考を加えたもの。自在に運動し組み合わされる四九のイメージ・ユニットに隠されたアイデアが、マネエリスム的な造形原理を明るみに出す。

16・17世紀の数学的音楽理論 音楽の数量化と感性的判断をめぐる

大愛崇晴

晃洋書房 (2021) ISBN9784771034259

古代から中世にかけて、音楽は天文学とともに数学の仲間だったが、本書は、16・17世紀に音楽はどのように数量化されていたか、それがいかにして感覚・感性の対象へと転換していったのかを解き明かしている。

フロニモ リュートの賢者

V. ガリレイ

東京コレギウム (2009) ISBN978-4-924541-91-7

有名な天文学者ガリレオ・ガリレイの父親ヴィンチェンツォ・ガリレイは、ルネサンス期を代表する音楽理論家であった。本書は、『古代と当代の音楽についての対話』と並ぶ彼の代表作で、リュートの賢者フロニモが、当時の音楽の基本概念およびリュートの奏法・編曲法など解説している。

ルネサンスの聖史劇

杉山博昭

中央公論新社 (2013) ISBN9784120044670

ルネサンスと地中海 世界の歴史 16

樺山紘一

中公文庫 (2008) ISBN978-4-12-204968-0

数々の著作でイタリア・ルネサンスの歴史を分かりやすく語って来た碩学による包括的なルネサンス史概論。多くの代表的な芸術家・人文主義者に光が当てられているのが嬉しい。



Scritti sull'arte del Rinascimento Italiano



選書&コメント= 池上俊一

発行= 名古屋大学出版会 [2021年6月]

店頭では取り扱いのない書籍もございますが、あしからずご了承ください